(1)

本日正午現在時刻 六十二度

天氣豫報 晴風

Tairiku Nippo
THE CONTINENTAL DAILY NEWS

大正元年九月十三日（日曜金）第一千五百八十號
Vol. 6 No. 1580 Friday September 13 1912

大陸日報

THE Continental Daily News
PUBLISHED DAILY EXCEPT SUNDAY
124 Gore Ave. Vancouver, B.C.
PHONES SEY. 3086 - 3024
PUBLISHED BY Yasushi Yamazaki

本紙定價
一枚 五仙
一ケ月 壹拾五仙
三ケ月 壹弗五仙
六ケ月 貳弗
一ケ年 參弗五拾仙
郵券代用一割増但し一切前金の事

發行兼編輯人 山崎寧

哀辭

皇天この邦に祥せず。神明斯民に福せず。人事憑く靈し來りて、遂に天命の如何ともすべからずや。亟駕遠く往いて復た返り給はずなりぬ。蒼昊難ず可らず。雲物慘色有り。陛下の臣民、陛下の赤子は、天に慟し地に哭して流血無辜。自ら裁する所を失ふ。顧に國因の御悩は玉體に殆ひして、熱減の度時に効なく、聖寿有日。鑾は俄忽に渡り給へり。陛下は乃ち聖。乃ち神。乃ち武。乃ち文。陛下幼沖にして登極遊ばされ、よく列聖の遺烈を紹繼し、内は國民的統一と國家的一致の實を擧げ、外は列國に對峙して國威を四境に示し皇化を八紘に布く。陛下の德は實々乎たり。民得て之を名づくる事なし。陛下の功は巍々乎たり。之を窺ひ難し。陛下は乃ち聖。乃ち神。乃ち文。陛下幼沖にして登極遊ばされ、よく列聖の遺烈を紹繼し、内は國民的統一と國家的一致の實を擧げ、外は列國に對峙して國威を四境に示し皇化を八紘に布く。陛下の德は實々乎たり。民得て之を名づくる事なし。陛下の功は巍々乎たり。之を窺ひ難し。皇統綿々二千六百餘。列聖相承け、教化年に熟んにして、威武世々に揚るも、鴻業中外に普く。德化邦に及ぶもの、未だ明治天皇陛下の如きはあらず。陛下は實に古今の大帝王に在します哉。四十五年の深恩未だ報ゆまつらざるに、草莽の微臣等、四千里外に在りて、今遽に御靈柩を西流に送りまゐらせんとす。哀崩殯處に新たに感慨、作爲の所を知らず。涙を灑ぎ詞を陳れば、慶んで哀衷を展べ、眞誠を盡ひ奉る。仰ぎ願くは在天の威靈、永劫に皇土を護らせ給へ。

未聞の御盛儀

▼本社特電▲

◎御大葬第一式（本月十日東京發）

明治天皇陛下御大葬は古式の儀容と近世的の軍容と參差變錯したる間に本日を以て始まれり日本國民の精粋は東京に集まり昨夜十二時より御列沿道に蝟集する群衆算を知らず。天候良好、警官の警備配置されて靈柩の御通路の行列を觀斷したるが街道埋沒の士女は五十万に上るべしと豫測さる。夜十二時を過ぐるや直ちに有司は宮廷に伺候して御儀式の御用意に着手せり。泰西の服裝と似通へる陰鬱の色調は東洋的の光彩に艶じぬ。各國特使は東京に集まり次に又本日午前星々より帝都の中心なる皇城前の大廣場を指して東京中の殆ど各人は樓蹟集しつゝあり。八月十三日以來各十日毎に宮廷に於て壯嚴なる御式あり。靈柩は殯宮に奉置し供御其他全般神統の典禮に準據して又靈柩は長さ十呎、幅五呎、重量一噸半なりと拜承す。大喪使一團本日午前八時殯宮に參候し第一に勳章捧持者、次ぎ宮内官、次れより内閣各大臣及び夫人其他參集し次で純日本式の禮裝したる係官と式部官參候し斯くて皇族各殿下、顧官、華族代表者、先帝の御病床に奉侍したる侍醫等參着し少憩ありて今上陛下には御腕と御佩劍とに御喪章を附せられたる大元帥の御禮裝にて出御あり東郷伯爵と宮内大臣渡邊子爵及び劍璽を奉持せる侍從職等陛下に隨從し次に内大臣桂公爵は侍從武官高村大將と共に參候し斯くて皇族方の御列續き皇后陛下には御垂髮麻の褐色の御衣にて御袴橙黄色のものを召され内親王方及び女官等亦御同樣の御服裝にて臨場、皇太后陛下にも日本式の御服裝にし御行列皇后陛下と御同樣なりき。兩陛下及び皇太后陛下の臨御あるや式部職は靈柩前の御帳をば揭げまつり神統の式樂あり奏樂中に式部長は供御を捧げ奉り又紅白の布地を捧獻し次で祈禱あり。天皇皇后兩陛下、皇太后陛下及び各皇族殿下が靈柩に禮拜遊ばされし折は最も神嚴にして肅然、斯くて御列再び始まりて兩陛下其他皇室御一同御退場ありたるも他の面々は先帝の神靈に禮拜し次で奏樂始まり式部長靈柩前の御帳を閉して御大葬第一式は終りたり

雜報

◎帝京の葬容

今十三日。遙か帝京お於て曠古の大葬樂を建てさせられたる先帝の御歡葬を營み奉る。洵に曠古の大壯儀にして拜聞する處に依れば

輦車發引の儀

九月十三日午後七時大勳位、親任官、大臣待遇、親任待遇、勅任官同待遇、有爵者、朝鮮貴族、從四位勳三等以上の有位帶勳者、高等官五等以上奏任官、貴族院議員、衆議院議員、帝國學士院會員、道府縣會議長、東京市長、東京市會議長

○各國交際官朝集所に參集す

服裝大禮服、山裝、正服、服制なき者は通常禮服各喪章を附す。關係諸員亦同じ神佛各宗派の管長は之に相當する服

午後八時式部官前導諸員御車寄前に臚列す

次に輦車（唐庇車）を御車寄に着す

大喪使事務官（服裝衣冠單、帶劍）奉仕

次に靈柩殯宮より出御。大行天皇側近奉仕の高等官（服裝衣冠單、帶劍）御綉を執り同上

左右各一人脂燭を秉る

式部長官（服裝衣冠單、帶劍）宮内大臣（同上）前行し大行天皇側近奉仕の高等官（同上内一人御劍を奉す）御後に候す

次に靈柩を輦車に奉遷す（大喪使事務官奉仕）

御劍を案（白木）上に安く（大行天皇側近奉仕の高等官奉仕）

是より先き案を靈柩の首位に安く

脂燭の火を松明に移す（同上）

移し訖て松明を内舍人に受く

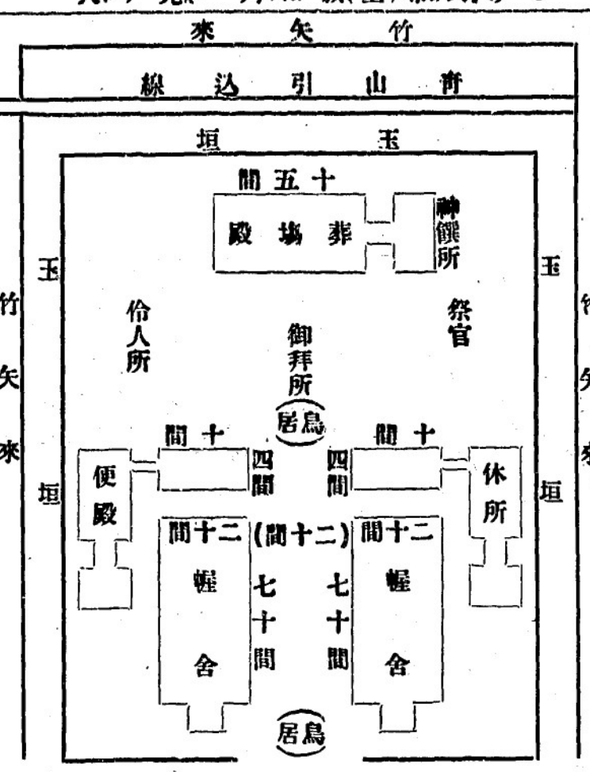
次に靈輦進御

此の時道樂を始む

▲本日奉奏の誄歌

本日青山葬場殿に於て供饌及び撤饌の際樂師の奏する誄歌は左の四

本日の青山御大葬式場圖



阿佐士怒波良。許斯那豆牟蘇良波由賀受阿斯用由久那

註釋

細竹茅葦の生ヒたる野原まで御跡慕ひ追ひ行くに道路もなし又白智鳥の如く靈空を飛び行くことも得ざるが故に步行して細竹茅葦の中を彷徨すると云ふ意なり

又人二浦鹽一而那豆美行時歌曰。

宇美賀由氣婆。許斯那豆牟。意富迦波良能。宇惠具佐。宇美賀波伊佐用布

註釋

海中まで近行かんとすれば腰あら海水に浸されて進み難く恰も水中の藻の漂ふが如しと云ふ

又飛居二其磯一之歌曰

波麻都知登理。波麻用波由賀受伊蘇豆多布

註釋

首にして頗る哀調を帶ぶるもの也

古事記倭建尊崩の卷

於是坐レ倭后等及御子等。諸下到而。作御陵卽倭國廻二其他之那豆岐田一而哭爲歌曰

那豆岐能。多能伊那賀良迺。伊那賀良迺。波比母登富呂布。登富呂豆良

註釋

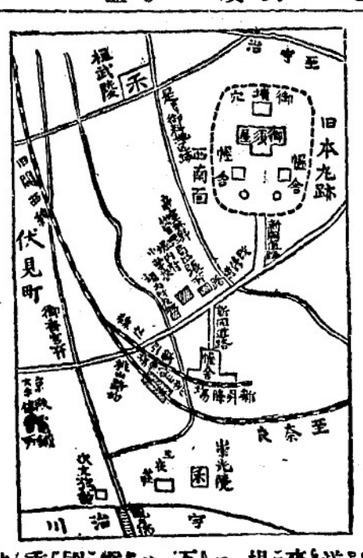
御陵の周圍にある稻莖に黃鮮蔓かゝれる如くに悲哀お堪へずして御陵の周圍を『ハヒメグル』と云ふ意

於レ是化二八尋白智鳥翔天而向レ濱行爾其后及御子等。於二其小竹之苅杙一雖二足跗破一忘二其痛哭一以追此時歌曰

白鳥は海中には飛び向はずして磯近を飛び巡れりそれ故に御跡を慕て行くも之に從ふ能はずと云ふ意

是四哥者皆哥二其御葬一也故至レ今其哥者哥天皇之大御葬也

右四首の歌は悲哀に堪へざるの意を述べたるなり



▲東京の御道筋裝飾

東京市に於ける本日御大葬儀の御道筋裝飾として瓦斯篝火と神明燈籠とを用ひ馬場先門及青山御齋場入口に華表を建設し前後に大眞榊及瓦斯篝火を配列し尙孤燈を配置するは勿論御道筋の上部お約百燭光の電燈を二十間毎に兩側宛之れを垂下し御道筋に當る電燈の電柱には相當の裝飾を施すと同時に馬場先門勸業銀行前虎の門葵坂日吉橋下赤坂見附區役所前等には孤光燈を備へ馬場先門以外より青山華表に至るまで兩側に十間毎に飾り柱を建て黑布を纏ひ弔意を表すべしと云ふ

▲我陸海軍及列國軍艦の弔砲

本日の御大葬式擧行と同時に陸軍にては陸軍士官學校練兵場に於て海軍にては品川灣に於て均しく弔砲を發射し各師團司令部は同ト一六十發の弔砲を發射し尙陸軍の弔砲は本日午後八時靈柩宮城御發靷に初まり青山葬場殿御着柩に終り此間百〇一發の皇禮砲を行ひ明日は午前一時葬場殿御發柩の時刻より滊車にて大崎驛附近御通過の時迄更に百〇一發を發射し海軍は本日出羽司令長官の指揮下に在る第一艦隊全部品川灣に碇泊し同時に六十發の皇禮砲を發射し明日も大崎驛附近御通過より始まり平沼驛御通過の時間中一艦より六十發宛都合六艦にて三百六十發の弔砲を發すべし。尙列國東洋艦隊は本日横濱に來港し英國は威海衛根據地よりウ井ンスロー司令長官指揮の下に獨逸は青島より ハインリッヒ御坐乘艦シャルルホルスト米國はノックス使節坐乘艦メリーランド其他支那沿海警備中の各司令長官指揮の下に來航の上我表敬軍艦に倣ひ各六十發の弔砲を發すべし

◎大葬遙拜式

加奈陀日本人會司祭の御大葬遙拜式は今夜八時よりヘスティングスパークに於て擧行すべし參列者心得は左の如し

一。七時、七時十分、七時廿分の三回メインとバウエル街より式場行電車出づべし

二。式場内は一切禁煙。男女共に脫帽。喪章を纏附せよ。謹嚴靜肅を保つ可し

三。御弔辭を捧讀すべき各團体代表者は必ず七時頃までに式場に參集せよ

◎弔旗軒頭に飜る

御大葬日に遭ふて在外の臣等は哀痛更に新なるものあり謹んで謹慎の誠意を表し各日本人商店は其業を休んで哀喪を展べ、軒頭に弔旗飜つて靜肅に街頭の行人悉く愁色あり、天氣晴朗にして午前十時より領事官邸お先帝陛下の御眞影に最後の參拜をなすもの中々に多し

◎平寧の遙拜式

平寧ハーモンド地方に在留する百五十餘名の同胞は平寧共進會場内にて遙拜式を擧行すべし井上次郎、大池久助、中山要太郎、中野國太郎吉野倉八諸氏委員なるが平寧共進會にては其の擧を美とし殊に評議員會を開きたる末會場の無料貸與を申出でたりといふ

◎本社特電

十二日午後四時着

本日宮廷に於て最後の御儀式執行あり兩陛下皇太后陛下其他各皇族殿下を初め高官顯職の人々先帝陛下の靈柩に對して最後の拜訣ありたり御大葬の準備は悉皆完了しあるも御儀式の當時雨天なるべき憂慎あり

明十三日 新帝陛下には細民救擠の爲に金壹百萬圓を御下賜遊ばさるゝと同時に詔書を御發表あらせらるべしと拜聞す

（昨日號外再錄）

本日本紙八頁

▼鳳駕遠く行いて復た終に廻りまさず御大葬式日に過つて聞外の赤子が哀傷の情抑も何に較べん

▼先帝御天資英邁而して御進修の結果は更に剛健の御德を以て御始終遊ばされ給ひき拜仰お畏し

▼明治中興の英主遠駕長馭の神武景行二天皇ヶ師表と爲し給ひしと拜承す在外民衆はざる可んや

▼蘇國ダノックに英國首相と内相とゴルフ遊技の際女權黨員に襲撃さる女だてらの暴行苦々し矣

▼將來近く發生は見まじきも能に一度加奈陀は國政の危期に到達せんと倫敦デイリーメール謂ふ

▼土地投機熱幸大の危期に達せりと爲すもの眞に考量を要する題案たり加奈陀の發展は畸形的乎

▼物質的發展顯著なるも政治的に追隨せざる太だしとの論評は爲政家の三思を要する絕好問題也

▼米國大統領改選の後ならずしては獨逸の巴峽大博參加の如何決定されずと大博に採りて一難局

▼知事ウィルソン當選せば獨逸必ず參加せんタ氏又は婁氏當選するに於ては問題乃ち發生し來る

▼日本が卒先して大博參加に決したること寔に大博當路の感謝に値せずんば非ず倨傲を許さず矣

哀歌

在巴里 與謝野晶子

小雨降り白き沙漠にあるごとし巴里の空も諒闇に泣く

大宮を拜みつゝもこの嘆きこの悲しさも申してましを

我帝長き眠に就かせりとこの大事をば空隔て聞く

大君の綸のいでまし御車の音だに近く聞かましものを

何せしぞときはかきはに祈られし神の御裔の清き御命

三五人よその都に語ること哀れなりけり諒闇の人

第一の現人神をうしなふと世界の人もなげく大君

ひんがしに眞廣き人の道あるも此大君の御代に初まる

神倭朕余彦よりいや高くいや大きくもいましつるかな

歯科
チカイ大學ドクトル谷口雄松
バウエル街二三二、六號室
電話シーモア八八二

醫學士大家武夫
仙臺醫學專門學校
バウエル街三一　東洋館二二號室
電話シーモア六八二

共立齒科口腔外科病院
院長ドクトル濱原石雄
技工專任米國醫學士　嶋正二
本院は今回最新式機械及最新式機械を以て患者の苦痛を除き患者の苦痛を除き患者の苦痛を除き

先帝御佩刀の各國勳章

先帝陛下が夙に世界列國との御交誼を重んぜさせ給ひ、御親交あらせられたことによつて、列國元首より如何に最高の名譽勳章を御贈進になつたかを拜承しても、亦陛下御功績の高きを偲ぶ思ひ出の種となる、中ふも特に英國皇帝陛下より御贈進あらせられた鏈飾勳章附肩のガーター大勳章及露國皇帝陛下よりのアンデレーペルウオスウンニー大綬章及墺國皇帝陛下よりの黒鷲鏈飾附大勳章、西班牙國大皇帝陛下よりのトアゾンドール大勳章の如きは世界有數の名譽勳章であつて、最も御親交國の元首にあらざれば御贈進なき且つ其數に限りある高貴の大勳章である、即ち陛下が列國元首より御受領の最高勳章は、本日の御大葬儀列に何れも高官が捧持されることに定まつて居るが、其中當該各國の勳章贈與令に基づき御返却相成るべきは墺國御贈進の三種の勳章と白耳義及び和蘭國の御贈進大綬章の五種である、今各國元首より捧呈された勳章を數へ挙らすれば次の如くである

△墺國　黒鷲大綬章（同十二年五月捧呈）
赤鷲勳章（同上）
黒鷲連鎖章（同廿八年六月）

△露西亞國　アンクレーペルウオスウンニー大綬章（同十二年九月）

△伊太利國　アンアンシャド勳章（同十二年十二月）

△白耳義國　レオポール大綬章（同十三年十一月）

△瑞地利洪牙利國　サンクチエンヌ大綬章（同十四年五月）

△和蘭國　ネーデルランセンレーウ大綬章（同十四年七月）

△瑞典國　セラフヒン勳章（十五年四月）

△羅馬尼亞國　白鷹大勳章（同十五年十二月）

△佛蘭西國　レジヨンドノール大綬章（十六年三月）

△希臘國　鏈飾附カメハメハ大綬章（同十六年四月）

△西班牙國　トアゾンドール大勳章（同十七年二月）

△葡萄牙國　鏈飾附ツーツール エスペー大綬章（同十七年四月）
三種勳章各一大綬章同（廿七年四月）

△梅格陵堡國　鏈飾附ルクーロン ドソンダリーヴエンヂツシエンクローネ大綬章（同十八年二月）

△羅馬尼國　ダンエロブルミエー勳章（同十八年二月）

△丁抹國　エレフアンブラン勳章（同廿年九月）

△希臘國　白鷹勳章（同二十年九月）

△土耳其國　高等ニシャエイイムチアツ勳章（同廿三年六月）

△希臘國　ソーウール大綬章（同廿四年五月）

△巴拿馬國　王冠大綬章（同廿年六月）

△韓國　金尺大勳章（廿三年九月）

△大不列顛國　鏈飾勳服附屬ガーター勳章（同廿九年二月）

△葡國　嘉等節一珠寶星（同廿一年十二月）
上等珍珠寶星（同上）

△ブロウンシエヴアイセ國　レーヴエンアルブレヒト大綬章（同四十三年六月）

（柳原典侍筆記）

先帝御製の軍歌

明治天皇陛下が和歌については別して御好み厚かりしだけ御製の數八万餘首に及べるよし洩れ承はれるが軍歌の御製は御生涯を通じて唯一回在せしのみにて即ち左に記し奉る者是なり

頃は明治三十三
弱生の春の末つかた
紀伊水道の邊りにて
雪に明ましき大演習
彼方は富士を旗艦とし
續く高千穂和泉艦
筑紫千代田に秋津洲
世界に誇る敷島艦
遊擊隊には扶桑艦
松島橋立嚴島
俱に進むる鐵遠號
水雷艇逐の曙や
雷電イ知火も
東雲霧雲夕霧と
波を蹴立て進み行く
此方の旗艦は八島艦
常磐千歳に高砂や
吉野浦田と豐橋は
小鷹福龍等に
其外十二の水雷を
後に隨ひ向ひ行く
午後の一時を過る頃
彼我の艦隊衝突し
打つ打れつ諸共に
烟は黑く立ち上り
砲聲天に轟けり
乘御なりたる淺間艦
供奉は明石に宮古艦
八重山跳と陽炎艦
隊を亂さず進みけり
此戰況を御覽あり
交戰數時に渉りつゝ
彼我兩軍はいつとなく
立つ白波を跡にして
彼方此方に分れ行く
波風なぎて春かすみ
富士の合圖に隨つて
彼の艦隊は打つれて
和歌の浦邊に碇泊す
日も暮果て烏羽玉の
闇を便りて此方なる
旗艦八島の命に依り
十六艘の水雷艇
嚴も碎けと突入す
スハ一大事ぞと各艦は
電氣燈をば向直し
照す光りの速射砲
霰の如く打出す
その有樣ぞ勇ましき
是ぞ御國の威嚴なる
帝國萬歲萬々歲

御血統を享けたる皇子皇女

先帝陛下が皇子皇女は數多御誕生あらせられし中に、今上陛下は大帝第三の皇子に渡らせられ竹田宮妃昌子内親王、北白川宮妃房子内親王、朝香宮妃允子内親王、泰宮聰子内親王殿下の御四方はいづれも洽ねく世人が拜承熟知し奉つるところなるか、早く神去りましませし皇子皇女達は

稚瑞照彥命（明治六年九月薨去）
（明治天皇第一皇子）

三品敬仁親王（明治十一年七月薨去）
（明治天皇第二皇子）

欽仁親王（明治廿一年十一月薨去）
（明治天皇第四皇子）

輝仁親王（明治廿七年八月薨去）
（明治天皇第五皇子）

稚高依姫命（明治六年十一月薨去）
（明治天皇第一皇女）

薫子内親王（明治九年六月薨去）
（明治天皇第二皇女）

韶子内親王（明治十六年九月薨去）
（明治天皇第四皇女）

章子内親王（明治十六年九月薨去）
（明治天皇第四皇女）

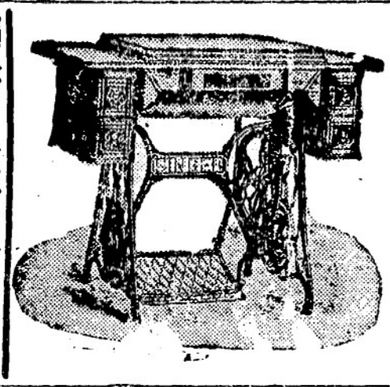
静子内親王（明治廿年四月薨去）
（明治天皇第五皇女）

多喜子内親王（明治廿二年一月薨去）
（明治天皇第十皇女）

にして總て五皇子、十皇女を儲けさせ給ひし中に、第三の今上陛下と第六、七、八、九の四皇女のみ御壯健に渡らせ給ひ、四皇子六皇女は有栖川宮熾仁親王、北白川宮能久親王、小松宅彰仁親王、山階宮晃親王等各宮家の御墓所なる小石川豐島岡の御陵地に御埋葬しゝ

▲廣告▼

磁器
石
ベースボール
用品一切
食料品一切
和洋雜貨
エキスプレス
瀨戸物。大工道具一切
晩香坡市パウエル街二二三
松宮商店
電話 三五九七



シンガー裁縫機械販賣
容易なる拂込ゐて販賣仕候
一、針一切、一、蓄音機
並に各種裁縫機械修繕
晩市メーン街六〇八
代理人
エフ、ハンフレー（電話 三四九九）

御婦人洋服仕立
粗々迅速丁寧を旨とし廉價に調進可仕候
晩市グランビル街二二五
三番商會二階
長嶺げん

肉類
バウエル街二三八
ムーデー店

御婦人方は御覽なさい
當店では目下カーペット、カーテン其他家具、御婦人用品なんでも大安賣を致して居ります
十弗のカーペット……六弗七十五仙
一弗五十仙……九十五仙
總毛の大ケット二弗七十五仙
三弗、四弗五十仙、五弗等
婦人洋服、コート類、帽子、コーセット、靴下何れも特別の大安賣
西ヘスチングス街二九、三一、三三、三五
ヂエムススタークスターク商會
James Stark & Sons Ltd.

▲御手輕料理
▲すし
▲そば
晩香坡市パウエル街三六五
月の家
電話五三八四

▼書籍類▼
○月刊雜誌
◇お菓子
パウエル街四三七
電話ハイ七七一
鈴木商店

御手輕料理
並うめし
パウエル街二六六
元春駒亭跡
やまとめしや
電話シーモア二四八四エル

南京御料理並そば
場所は市内一等の美味
料理は南京町停車場前
蒸籠は充分ゐ材料精選
室内手廣にして最清潔
多人數宴會は特別勉强
日本人諸君は常に歡迎
東ペンダー街二三二階「電話八六五〇」
宴新樓

●迅速叮嚀本店特色●
晩香坡市メイン街二二五
田鍋洋服店
電話シーモア三〇二四

●金員貸與
●代辯事務
●對白人交渉事件
例へば鐵道者くはソーミル就働中負傷したる場合其の原因に依り二千五百弗までの損害賠償金を請求するを得其の他此の種の對白人交渉の依頼ゐ應ず
永尾事務所
電話三八八六
バウエル街二四三
萬歲館第一號室

M. Furuya Co. Ltd.
Phone 1811　P. O. Box 1930
46 Hastings St. W　Vancouver B. C
古屋商店
バンクーバー支店
郵便一九二〇…電話一六二一

新着書籍
初等英和辭典
片カナ發音付　六十仙郵稅五仙
英語熟達ノート
日本雜誌速達

Code Western Union
Cabes Kinyu Sha.
PHONE. 2721　270 Powell St
NIPPON KINYU SHA.
銀行事務
當座預金
貸附　手形引替
利子附貯金預金
定期預金
本社事務所は日本郵便支局事務所と接近し居れば日本送金等に取も便利なり
日本金融株式會社
頭取　エー、マキボーイ
重役　是永壽吉
主任　エ、ブイ、ガーデナー

朝鮮人參
効能
強壮
元氣
電話三二一
ウエル街
特製人參所

雜貨商
バウエル街三三三
永松商會
電話シ三六四

日本製　漁網　漁具
大阪商船乘船切符賣捌所
晩香坡市東カドバ街一五
直輸出入
商是永壽吉
電話シ二四八（自宅ノ英三）（郵便一〇二五）

大陸日報　第千五百八十號（金曜日）

明治天皇陸下

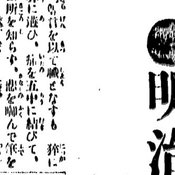
▲嗚呼大なる哉陛下の仁　▲嗚呼懿なる哉陛下の德

明治天皇陸下御像

大正天皇陸下

明治天皇陸下御代　東京皇居

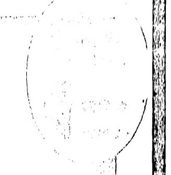
東京皇居



明治天皇陸下御代　東京皇居

明治天皇陸下御代　東京皇居

明治天皇陸下御代　東京皇居



明治天皇陸下御代　東京皇居

明治天皇陸下御代　東京皇居

〈明治天皇の御血統〉

明治天皇の御血統を按ずるに、陸下は第百十三代の天皇にして、第百十代の天皇の御子にして、第百十一代の天皇の御子にして、第百十二代の天皇の御子にして、第百十三代の天皇の御子にして、第百十四代の天皇の御子にして、第百十五代の天皇の御子にして、第百十六代の天皇の御子にして、第百十七代の天皇の御子にして、第百十八代の天皇の御子にして、第百十九代の天皇の御子にして、第百二十代の天皇の御子にして、第百二十一代の天皇の御子にして、第百二十二代の天皇の御子にして、第百二十三代の天皇の御子にして、第百二十四代の天皇の御子にして、第百二十五代の天皇の御子にして、第百二十六代の天皇の御子にして、第百二十七代の天皇の御子にして、第百二十八代の天皇の御子にして、第百二十九代の天皇の御子にして、第百三十代の天皇の御子にして、第百三十一代の天皇の御子にして、第百三十二代の天皇の御子にして、第百三十三代の天皇の御子にして、第百三十四代の天皇の御子にして、第百三十五代の天皇の御子にして、第百三十六代の天皇の御子にして、第百三十七代の天皇の御子にして、第百三十八代の天皇の御子にして、第百三十九代の天皇の御子にして、第百四十代の天皇の御子にして、第百四十一代の天皇の御子にして、第百四十二代の天皇の御子にして、第百四十三代の天皇の御子にして、第百四十四代の天皇の御子にして、第百四十五代の天皇の御子にして、第百四十六代の天皇の御子にして、第百四十七代の天皇の御子にして、第百四十八代の天皇の御子にして、第百四十九代の天皇の御子にして、第百五十代の天皇の御子にして、第百五十一代の天皇の御子にして、第百五十二代の天皇の御子にして、第百五十三代の天皇の御子にして、第百五十四代の天皇の御子にして、第百五十五代の天皇の御子にして、第百五十六代の天皇の御子にして、第百五十七代の天皇の御子にして、第百五十八代の天皇の御子にして、第百五十九代の天皇の御子にして、第百六十代の天皇の御子にして、第百六十一代の天皇の御子にして、第百六十二代の天皇の御子にして、第百六十三代の天皇の御子にして、第百六十四代の天皇の御子にして、第百六十五代の天皇の御子にして、第百六十六代の天皇の御子にして、第百六十七代の天皇の御子にして、第百六十八代の天皇の御子にして、第百六十九代の天皇の御子にして、第百七十代の天皇の御子にして、第百七十一代の天皇の御子にして、第百七十二代の天皇の御子にして、第百七十三代の天皇の御子にして、第百七十四代の天皇の御子にして、第百七十五代の天皇の御子にして、第百七十六代の天皇の御子にして、第百七十七代の天皇の御子にして、第百七十八代の天皇の御子にして、第百七十九代の天皇の御子にして、第百八十代の天皇の御子にして、第百八十一代の天皇の御子にして、第百八十二代の天皇の御子にして、第百八十三代の天皇の御子にして、第百八十四代の天皇の御子にして、第百八十五代の天皇の御子にして、第百八十六代の天皇の御子にして、第百八十七代の天皇の御子にして、第百八十八代の天皇の御子にして、第百八十九代の天皇の御子にして、第百九十代の天皇の御子にして、第百九十一代の天皇の御子にして、第百九十二代の天皇の御子にして、第百九十三代の天皇の御子にして、第百九十四代の天皇の御子にして、第百九十五代の天皇の御子にして、第百九十六代の天皇の御子にして、第百九十七代の天皇の御子にして、第百九十八代の天皇の御子にして、第百九十九代の天皇の御子にして、第二百代の天皇の御子にして、第二百一代の天皇の御子にして、第二百二代の天皇の御子にして、第二百三代の天皇の御子にして、第二百四代の天皇の御子にして、第二百五代の天皇の御子にして、第二百六代の天皇の御子にして、第二百七代の天皇の御子にして、第二百八代の天皇の御子にして、第二百九代の天皇の御子にして、第二百十代の天皇の御子にして、第二百十一代の天皇の御子にして、第二百十二代の天皇の御子にして、第二百十三代の天皇の御子にして、第二百十四代の天皇の御子にして、第二百十五代の天皇の御子にして、第二百十六代の天皇の御子にして、第二百十七代の天皇の御子にして、第二百十八代の天皇の御子にして、第二百十九代の天皇の御子にして、第二百二十代の天皇の御子にして、第二百二十一代の天皇の御子にして、第二百二十二代の天皇の御子にして、第二百二十三代の天皇の御子にして、第二百二十四代の天皇の御子にして、第二百二十五代の天皇の御子にして、第二百二十六代の天皇の御子にして、第二百二十七代の天皇の御子にして、第二百二十八代の天皇の御子にして、第二百二十九代の天皇の御子にして、第二百三十代の天皇の御子にして、第二百三十一代の天皇の御子にして、第二百三十二代の天皇の御子にして、第二百三十三代の天皇の御子にして、第二百三十四代の天皇の御子にして、第二百三十五代の天皇の御子にして、第二百三十六代の天皇の御子にして、第二百三十七代の天皇の御子にして、第二百三十八代の天皇の御子にして、第二百三十九代の天皇の御子にして、第二百四十代の天皇の御子にして、第二百四十一代の天皇の御子にして、第二百四十二代の天皇の御子にして、第二百四十三代の天皇の御子にして、第二百四十四代の天皇の御子にして、第二百四十五代の天皇の御子にして、第二百四十六代の天皇の御子にして、第二百四十七代の天皇の御子にして、第二百四十八代の天皇の御子にして、第二百四十九代の天皇の御子にして、第二百五十代の天皇の御子にして、第二百五十一代の天皇の御子にして、第二百五十二代の天皇の御子にして、第二百五十三代の天皇の御子にして、第二百五十四代の天皇の御子にして、第二百五十五代の天皇の御子にして、第二百五十六代の天皇の御子にして、第二百五十七代の天皇の御子にして、第二百五十八代の天皇の御子にして、第二百五十九代の天皇の御子にして、第二百六十代の天皇の御子にして、第二百六十一代の天皇の御子にして、第二百六十二代の天皇の御子にして、第二百六十三代の天皇の御子にして、第二百六十四代の天皇の御子にして、第二百六十五代の天皇の御子にして、第二百六十六代の天皇の御子にして、第二百六十七代の天皇の御子にして、第二百六十八代の天皇の御子にして、第二百六十九代の天皇の御子にして、第二百七十代の天皇の御子にして、第二百七十一代の天皇の御子にして、第二百七十二代の天皇の御子にして、第二百七十三代の天皇の御子にして、第二百七十四代の天皇の御子にして、第二百七十五代の天皇の御子にして、第二百七十六代の天皇の御子にして、第二百七十七代の天皇の御子にして、第二百七十八代の天皇の御子にして、第二百七十九代の天皇の御子にして、第二百八十代の天皇の御子にして、第二百八十一代の天皇の御子にして、第二百八十二代の天皇の御子にして、第二百八十三代の天皇の御子にして、第二百八十四代の天皇の御子にして、第二百八十五代の天皇の御子にして、第二百八十六代の天皇の御子にして、第二百八十七代の天皇の御子にして、第二百八十八代の天皇の御子にして、第二百八十九代の天皇の御子にして、第二百九十代の天皇の御子にして、第二百九十一代の天皇の御子にして、第二百九十二代の天皇の御子にして、第二百九十三代の天皇の御子にして、第二百九十四代の天皇の御子にして、第二百九十五代の天皇の御子にして、第二百九十六代の天皇の御子にして、第二百九十七代の天皇の御子にして、第二百九十八代の天皇の御子にして、第二百九十九代の天皇の御子にして、第三百代の天皇の御子にして、第三百一代の天皇の御子にして、第三百二代の天皇の御子にして、第三百三代の天皇の御子にして、第三百四代の天皇の御子にして、第三百五代の天皇の御子にして、第三百六代の天皇の御子にして、第三百七代の天皇の御子にして、第三百八代の天皇の御子にして、第三百九代の天皇の御子にして、第三百十代の天皇の御子にして、第三百十一代の天皇の御子にして、第三百十二代の天皇の御子にして、第三百十三代の天皇の御子にして、第三百十四代の天皇の御子にして、第三百十五代の天皇の御子にして、第三百十六代の天皇の御子にして、第三百十七代の天皇の御子にして、第三百十八代の天皇の御子にして、第三百十九代の天皇の御子にして、第三百二十代の天皇の御子にして、第三百二十一代の天皇の御子にして、第三百二十二代の天皇の御子にして、第三百二十三代の天皇の御子にして、第三百二十四代の天皇の御子にして、第三百二十五代の天皇の御子にして、第三百二十六代の天皇の御子にして、第三百二十七代の天皇の御子にして、第三百二十八代の天皇の御子にして、第三百二十九代の天皇の御子にして、第三百三十代の天皇の御子にして、第三百三十一代の天皇の御子にして、第三百三十二代の天皇の御子にして、第三百三十三代の天皇の御子にして、第三百三十四代の天皇の御子にして、第三百三十五代の天皇の御子にして、第三百三十六代の天皇の御子にして、第三百三十七代の天皇の御子にして、第三百三十八代の天皇の御子にして、第三百三十九代の天皇の御子にして、第三百四十代の天皇の御子にして、第三百四十一代の天皇の御子にして、第三百四十二代の天皇の御子にして、第三百四十三代の天皇の御子にして、第三百四十四代の天皇の御子にして、第三百四十五代の天皇の御子にして、第三百四十六代の天皇の御子にして、第三百四十七代の天皇の御子にして、第三百四十八代の天皇の御子にして、第三百四十九代の天皇の御子にして、第三百五十代の天皇の御子にして、第三百五十一代の天皇の御子にして、第三百五十二代の天皇の御子にして、第三百五十三代の天皇の御子にして、第三百五十四代の天皇の御子にして、第三百五十五代の天皇の御子にして、第三百五十六代の天皇の御子にして、第三百五十七代の天皇の御子にして、第三百五十八代の天皇の御子にして、第三百五十九代の天皇の御子にして、第三百六十代の天皇の御子にして、第三百六十一代の天皇の御子にして、第三百六十二代の天皇の御子にして、第三百六十三代の天皇の御子にして、第三百六十四代の天皇の御子にして、第三百六十五代の天皇の御子にして、第三百六十六代の天皇の御子にして、第三百六十七代の天皇の御子にして、第三百六十八代の天皇の御子にして、第三百六十九代の天皇の御子にして、第三百七十代の天皇の御子にして、第三百七十一代の天皇の御子にして、第三百七十二代の天皇の御子にして、第三百七十三代の天皇の御子にして、第三百七十四代の天皇の御子にして、第三百七十五代の天皇の御子にして、第三百七十六代の天皇の御子にして、第三百七十七代の天皇の御子にして、第三百七十八代の天皇の御子にして、第三百七十九代の天皇の御子にして、第三百八十代の天皇の御子にして、第三百八十一代の天皇の御子にして、第三百八十二代の天皇の御子にして、第三百八十三代の天皇の御子にして、第三百八十四代の天皇の御子にして、第三百八十五代の天皇の御子にして、第三百八十六代の天皇の御子にして、第三百八十七代の天皇の御子にして、第三百八十八代の天皇の御子にして、第三百八十九代の天皇の御子にして、第三百九十代の天皇の御子にして、第三百九十一代の天皇の御子にして、第三百九十二代の天皇の御子にして、第三百九十三代の天皇の御子にして、第三百九十四代の天皇の御子にして、第三百九十五代の天皇の御子にして、第三百九十六代の天皇の御子にして、第三百九十七代の天皇の御子にして、第三百九十八代の天皇の御子にして、第三百九十九代の天皇の御子にして、第四百代の天皇の御子にして、第四百一代の天皇の御子にして、第四百二代の天皇の御子にして、第四百三代の天皇の御子にして、第四百四代の天皇の御子にして、第四百五代の天皇の御子にして、第四百六代の天皇の御子にして、第四百七代の天皇の御子にして、第四百八代の天皇の御子にして、第四百九代の天皇の御子にして、第四百十代の天皇の御子にして、第四百十一代の天皇の御子にして、第四百十二代の天皇の御子にして、第四百十三代の天皇の御子にして、第四百十四代の天皇の御子にして、第四百十五代の天皇の御子にして、第四百十六代の天皇の御子にして、第四百十七代の天皇の御子にして、第四百十八代の天皇の御子にして、第四百十九代の天皇の御子にして、第四百二十代の天皇の御子にして、第四百二十一代の天皇の御子にして、第四百二十二代の天皇の御子にして、第四百二十三代の天皇の御子にして、第四百二十四代の天皇の御子にして、第四百二十五代の天皇の御子にして、第四百二十六代の天皇の御子にして、第四百二十七代の天皇の御子にして、第四百二十八代の天皇の御子にして、第四百二十九代の天皇の御子にして、第四百三十代の天皇の御子にして、第四百三十一代の天皇の御子にして、第四百三十二代の天皇の御子にして、第四百三十三代の天皇の御子にして、第四百三十四代の天皇の御子にして、第四百三十五代の天皇の御子にして、第四百三十六代の天皇の御子にして、第四百三十七代の天皇の御子にして、第四百三十八代の天皇の御子にして、第四百三十九代の天皇の御子にして、第四百四十代の天皇の御子にして、第四百四十一代の天皇の御子にして、第四百四十二代の天皇の御子にして、第四百四十三代の天皇の御子にして、第四百四十四代の天皇の御子にして、第四百四十五代の天皇の御子にして、第四百四十六代の天皇の御子にして、第四百四十七代の天皇の御子にして、第四百四十八代の天皇の御子にして、第四百四十九代の天皇の御子にして、第四百五十代の天皇の御子にして、第四百五十一代の天皇の御子にして、第四百五十二代の天皇の御子にして、第四百五十三代の天皇の御子にして、第四百五十四代の天皇の御子にして、第四百五十五代の天皇の御子にして、第四百五十六代の天皇の御子にして、第四百五十七代の天皇の御子にして、第四百五十八代の天皇の御子にして、第四百五十九代の天皇の御子にして、第四百六十代の天皇の御子にして、第四百六十一代の天皇の御子にして、第四百六十二代の天皇の御子にして、第四百六十三代の天皇の御子にして、第四百六十四代の天皇の御子にして、第四百六十五代の天皇の御子にして、第四百六十六代の天皇の御子にして、第四百六十七代の天皇の御子にして、第四百六十八代の天皇の御子にして、第四百六十九代の天皇の御子にして、第四百七十代の天皇の御子にして、第四百七十一代の天皇の御子にして、第四百七十二代の天皇の御子にして、第四百七十三代の天皇の御子にして、第四百七十四代の天皇の御子にして、第四百七十五代の天皇の御子にして、第四百七十六代の天皇の御子にして、第四百七十七代の天皇の御子にして、第四百七十八代の天皇の御子にして、第四百七十九代の天皇の御子にして、第四百八十代の天皇の御子にして、第四百八十一代の天皇の御子にして、第四百八十二代の天皇の御子にして、第四百八十三代の天皇の御子にして、第四百八十四代の天皇の御子にして、第四百八十五代の天皇の御子にして、第四百八十六代の天皇の御子にして、第四百八十七代の天皇の御子にして、第四百八十八代の天皇の御子にして、第四百八十九代の天皇の御子にして、第四百九十代の天皇の御子にして、第四百九十一代の天皇の御子にして、第四百九十二代の天皇の御子にして、第四百九十三代の天皇の御子にして、第四百九十四代の天皇の御子にして、第四百九十五代の天皇の御子にして、第四百九十六代の天皇の御子にして、第四百九十七代の天皇の御子にして、第四百九十八代の天皇の御子にして、第四百九十九代の天皇の御子にして、第五百代の天皇の御子にして、第五百一代の天皇の御子にして、第五百二代の天皇の御子にして、第五百三代の天皇の御子にして、第五百四代の天皇の御子にして、第五百五代の天皇の御子にして、第五百六代の天皇の御子にして、第五百七代の天皇の御子にして、第五百八代の天皇の御子にして、第五百九代の天皇の御子にして、第五百十代の天皇の御子にして、第五百十一代の天皇の御子にして、第五百十二代の天皇の御子にして、第五百十三代の天皇の御子にして、第五百十四代の天皇の御子にして、第五百十五代の天皇の御子にして、第五百十六代の天皇の御子にして、第五百十七代の天皇の御子にして、第五百十八代の天皇の御子にして、第五百十九代の天皇の御子にして、第五百二十代の天皇の御子にして、第五百二十一代の天皇の御子にして、第五百二十二代の天皇の御子にして、第五百二十三代の天皇の御子にして、第五百二十四代の天皇の御子にして、第五百二十五代の天皇の御子にして、第五百二十六代の天皇の御子にして、第五百二十七代の天皇の御子にして、第五百二十八代の天皇の御子にして、第五百二十九代の天皇の御子にして、第五百三十代の天皇の御子にして、第五百三十一代の天皇の御子にして、第五百三十二代の天皇の御子にして、第五百三十三代の天皇の御子にして、第五百三十四代の天皇の御子にして、第五百三十五代の天皇の御子にして、第五百三十六代の天皇の御子にして、第五百三十七代の天皇の御子にして、第五百三十八代の天皇の御子にして、第五百三十九代の天皇の御子にして、第五百四十代の天皇の御子にして、第五百四十一代の天皇の御子にして、第五百四十二代の天皇の御子にして、第五百四十三代の天皇の御子にして、第五百四十四代の天皇の御子にして、第五百四十五代の天皇の御子にして、第五百四十六代の天皇の御子にして、第五百四十七代の天皇の御子にして、第五百四十八代の天皇の御子にして、第五百四十九代の天皇の御子にして、第五百五十代の天皇の御子にして、第五百五十一代の天皇の御子にして、第五百五十二代の天皇の御子にして、第五百五十三代の天皇の御子にして、第五百五十四代の天皇の御子にして、第五百五十五代の天皇の御子にして、第五百五十六代の天皇の御子にして、第五百五十七代の天皇の御子にして、第五百五十八代の天皇の御子にして、第五百五十九代の天皇の御子にして、第五百六十代の天皇の御子にして、第五百六十一代の天皇の御子にして、第五百六十二代の天皇の御子にして、第五百六十三代の天皇の御子にして、第五百六十四代の天皇の御子にして、第五百六十五代の天皇の御子にして、第五百六十六代の天皇の御子にして、第五百六十七代の天皇の御子にして、第五百六十八代の天皇の御子にして、第五百六十九代の天皇の御子にして、第五百七十代の天皇の御子にして、第五百七十一代の天皇の御子にして、第五百七十二代の天皇の御子にして、第五百七十三代の天皇の御子にして、第五百七十四代の天皇の御子にして、第五百七十五代の天皇の御子にして、第五百七十六代の天皇の御子にして、第五百七十七代の天皇の御子にして、第五百七十八代の天皇の御子にして、第五百七十九代の天皇の御子にして、第五百八十代の天皇の御子にして、第五百八十一代の天皇の御子にして、第五百八十二代の天皇の御子にして、第五百八十三代の天皇の御子にして、第五百八十四代の天皇の御子にして、第五百八十五代の天皇の御子にして、第五百八十六代の天皇の御子にして、第五百八十七代の天皇の御子にして、第五百八十八代の天皇の御子にして、第五百八十九代の天皇の御子にして、第五百九十代の天皇の御子にして、第五百九十一代の天皇の御子にして、第五百九十二代の天皇の御子にして、第五百九十三代の天皇の御子にして、第五百九十四代の天皇の御子にして、第五百九十五代の天皇の御子にして、第五百九十六代の天皇の御子にして、第五百九十七代の天皇の御子にして、第五百九十八代の天皇の御子にして、第五百九十九代の天皇の御子にして、第六百代の天皇の御子にして、第六百一代の天皇の御子にして、第六百二代の天皇の御子にして、第六百三代の天皇の御子にして、第六百四代の天皇の御子にして、第六百五代の天皇の御子にして、第六百六代の天皇の御子にして、第六百七代の天皇の御子にして、第六百八代の天皇の御子にして、第六百九代の天皇の御子にして、第六百十代の天皇の御子にして、第六百十一代の天皇の御子にして、第六百十二代の天皇の御子にして、第六百十三代の天皇の御子にして、第六百十四代の天皇の御子にして、第六百十五代の天皇の御子にして、第六百十六代の天皇の御子にして、第六百十七代の天皇の御子にして、第六百十八代の天皇の御子にして、第六百十九代の天皇の御子にして、第六百二十代の天皇の御子にして、第六百二十一代の天皇の御子にして、第六百二十二代の天皇の御子にして、第六百二十三代の天皇の御子にして、第六百二十四代の天皇の御子にして、第六百二十五代の天皇の御子にして、第六百二十六代の天皇の御子にして、第六百二十七代の天皇の御子にして、第六百二十八代の天皇の御子にして、第六百二十九代の天皇の御子にして、第六百三十代の天皇の御子にして、第六百三十一代の天皇の御子にして、第六百三十二代の天皇の御子にして、第六百三十三代の天皇の御子にして、第六百三十四代の天皇の御子にして、第六百三十五代の天皇の御子にして、第六百三十六代の天皇の御子にして、第六百三十七代の天皇の御子にして、第六百三十八代の天皇の御子にして、第六百三十九代の天皇の御子にして、第六百四十代の天皇の御子にして、第六百四十一代の天皇の御子にして、第六百四十二代の天皇の御子にして、第六百四十三代の天皇の御子にして、第六百四十四代の天皇の御子にして、第六百四十五代の天皇の御子にして、第六百四十六代の天皇の御子にして、第六百四十七代の天皇の御子にして、第六百四十八代の天皇の御子にして、第六百四十九代の天皇の御子にして、第六百五十代の天皇の御子にして、第六百五十一代の天皇の御子にして、第六百五十二代の天皇の御子にして、第六百五十三代の天皇の御子にして、第六百五十四代の天皇の御子にして、第六百五十五代の天皇の御子にして、第六百五十六代の天皇の御子にして、第六百五十七代の天皇の御子にして、第六百五十八代の天皇の御子にして、第六百五十九代の天皇の御子にして、第六百六十代の天皇の御子にして、第六百六十一代の天皇の御子にして、第六百六十二代の天皇の御子にして、第六百六十三代の天皇の御子にして、第六百六十四代の天皇の御子にして、第六百六十五代の天皇の御子にして、第六百六十六代の天皇の御子にして、第六百六十七代の天皇の御子にして、第六百六十八代の天皇の御子にして、第六百六十九代の天皇の御子にして、第七百代の天皇の御子にして、第七百一代の天皇の御子にして、第七百二代の天皇の御子にして、第七百三代の天皇の御子にして、第七百四代の天皇の御子にして、第七百五代の天皇の御子にして、第七百六代の天皇の御子にして、第七百七代の天皇の御子にして、第七百八代の天皇の御子にして、第七百九代の天皇の御子にして、第七百十代の天皇の御子にして、第七百十一代の天皇の御子にして、第七百十二代の天皇の御子にして、第七百十三代の天皇の御子にして、第七百十四代の天皇の御子にして、第七百十五代の天皇の御子にして、第七百十六代の天皇の御子にして、第七百十七代の天皇の御子にして、第七百十八代の天皇の御子にして、第七百十九代の天皇の御子にして、第七百二十代の天皇の御子にして、第七百二十一代の天皇の御子にして、第七百二十二代の天皇の御子にして、第七百二十三代の天皇の御子にして、第七百二十四代の天皇の御子にして、第七百二十五代の天皇の御子にして、第七百二十六代の天皇の御子にして、第七百二十七代の天皇の御子にして、第七百二十八代の天皇の御子にして、第七百二十九代の天皇の御子にして、第七百三十代の天皇の御子にして、第七百三十一代の天皇の御子にして、第七百三十二代の天皇の御子にして、第七百三十三代の天皇の御子にして、第七百三十四代の天皇の御子にして、第七百三十五代の天皇の御子にして、第七百三十六代の天皇の御子にして、第七百三十七代の天皇の御子にして、第七百三十八代の天皇の御子にして、第七百三十九代の天皇の御子にして、第七百四十代の天皇の御子にして、第七百四十一代の天皇の御子にして、第七百四十二代の天皇の御子にして、第七百四十三代の天皇の御子にして、第七百四十四代の天皇の御子にして、第七百四十五代の天皇の御子にして、第七百四十六代の天皇の御子にして、第七百四十七代の天皇の御子にして、第七百四十八代の天皇の御子にして、第七百四十九代の天皇の御子にして、第七百五十代の天皇の御子にして、第七百五十一代の天皇の御子にして、第七百五十二代の天皇の御子にして、第七百五十三代の天皇の御子にして、第七百五十四代の天皇の御子にして、第七百五十五代の天皇の御子にして、第七百五十六代の天皇の御子にして、第七百五十七代の天皇の御子にして、第七百五十八代の天皇の御子にして、第七百五十九代の天皇の御子にして、第七百六十代の天皇の御子にして、第七百六十一代の天皇の御子にして、第七百六十二代の天皇の御子にして、第七百六十三代の天皇の御子にして、第七百六十四代の天皇の御子にして、第七百六十五代の天皇の御子にして、第七百六十六代の天皇の御子にして、第七百六十七代の天皇の御子にして、第七百六十八代の天皇の御子にして、第七百六十九代の天皇の御子にして、第七百七十代の天皇の御子にして、第七百七十一代の天皇の御子にして、第七百七十二代の天皇の御子にして、第七百七十三代の天皇の御子にして、第七百七十四代の天皇の御子にして、第七百七十五代の天皇の御子にして、第七百七十六代の天皇の御子にして、第七百七十七代の天皇の御子にして、第七百七十八代の天皇の御子にして、第七百七十九代の天皇の御子にして、第七百八十代の天皇の御子にして、第七百八十一代の天皇の御子にして、第七百八十二代の天皇の御子にして、第七百八十三代の天皇の御子にして、第七百八十四代の天皇の御子にして、第七百八十五代の天皇の御子にして、第七百八十六代の天皇の御子にして、第七百八十七代の天皇の御子にして、第七百八十八代の天皇の御子にして、第七百八十九代の天皇の御子にして、第七百九十代の天皇の御子にして、第七百九十一代の天皇の御子にして、第七百九十二代の天皇の御子にして、第七百九十三代の天皇の御子にして、第七百九十四代の天皇の御子にして、第七百九十五代の天皇の御子にして、第七百九十六代の天皇の御子にして、第七百九十七代の天皇の御子にして、第七百九十八代の天皇の御子にして、第七百九十九代の天皇の御子にして、第八百代の天皇の御子にして、第八百一代の天皇の御子にして、第八百二代の天皇の御子にして、第八百三代の天皇の御子にして、第八百四代の天皇の御子にして、第八百五代の天皇の御子にして、第八百六代の天皇の御子にして、第八百七代の天皇の御子にして、第八百八代の天皇の御子にして、第八百九代の天皇の御子にして、第八百十代の天皇の御子にして、第八百十一代の天皇の御子にして、第八百十二代の天皇の御子にして、第八百十三代の天皇の御子にして、第八百十四代の天皇の御子にして、第八百十五代の天皇の御子にして、第八百十六代の天皇の御子にして、第八百十七代の天皇の御子にして、第八百十八代の天皇の御子にして、第八百十九代の天皇の御子にして、第八百二十代の天皇の御子にして、第八百二十一代の天皇の御子にして、第八百二十二代の天皇の御子にして、第八百二十三代の天皇の御子にして、第八百二十四代の天皇の御子にして、第八百二十五代の天皇の御子にして、第八百二十六代の天皇の御子にして、第八百二十七代の天皇の御子にして、第八百二十八代の天皇の御子にして、第八百二十九代の天皇の御子にして、第八百三十代の天皇の御子にして、第八百三十一代の天皇の御子にして、第八百三十二代の天皇の御子にして、第八百三十三代の天皇の御子にして、第八百三十四代の天皇の御子にして、第八百三十五代の天皇の御子にして、第八百三十六代の天皇の御子にして、第八百三十七代の天皇の御子にして、第八百三十八代の天皇の御子にして、第八百三十九代の天皇の御子にして、第八百四十代の天皇の御子にして、第八百四十一代の天皇の御子にして、第八百四十二代の天皇の御子にして、第八百四十三代の天皇の御子にして、第八百四十四代の天皇の御子にして、第八百四十五代の天皇の御子にして、第八百四十六代の天皇の御子にして、第八百四十七代の天皇の御子にして、第八百四十八代の天皇の御子にして、第八百四十九代の天皇の御子にして、第八百五十代の天皇の御子にして、第八百五十一代の天皇の御子にして、第八百五十二代の天皇の御子にして、第八百五十三代の天皇の御子にして、第八百五十四代の天皇の御子にして、第八百五十五代の天皇の御子にして、第八百五十六代の天皇の御子にして、第八百五十七代の天皇の御子にして、第八百五十八代の天皇の御子にして、第八百五十九代の天皇の御子にして、第八百六十代の天皇の御子にして、第八百六十一代の天皇の御子にして、第八百六十二代の天皇の御子にして、第八百六十三代の天皇の御子にして、第八百六十四代の天皇の御子にして、第八百六十五代の天皇の御子にして、第八百六十六代の天皇の御子にして、第八百六十七代の天皇の御子にして、第八百六十八代の天皇の御子にして、第八百六十九代の天皇の御子にして、第八百七十代の天皇の御子にして、第八百七十一代の天皇の御子にして、第八百七十二代の天皇の御子にして、第八百七十三代の天皇の御子にして、第八百七十四代の天皇の御子にして、第八百七十五代の天皇の御子にして、第八百七十六代の天皇の御子にして、第八百七十七代の天皇の御子にして、第八百七十八代の天皇の御子にして、第八百七十九代の天皇の御子にして、第八百八十代の天皇の御子にして、第八百八十一代の天皇の御子にして、第八百八十二代の天皇の御子にして、第八百八十三代の天皇の御子にして、第八百八十四代の天皇の御子にして、第八百八十五代の天皇の御子にして、第八百八十六代の天皇の御子にして、第八百八十七代の天皇の御子にして、第八百八十八代の天皇の御子にして、第八百八十九代の天皇の御子にして、第八百九十代の天皇の御子にして、第八百九十一代の天皇の御子にして、第八百九十二代の天皇の御子にして、第八百九十三代の天皇の御子にして、第八百九十四代の天皇の御子にして、第八百九十五代の天皇の御子にして、第八百九十六代の天皇の御子にして、第八百九十七代の天皇の御子にして、第八百九十八代の天皇の御子にして、第八百九十九代の天皇の御子にして、第九百代の天皇の御子にして、第九百一代の天皇の御子にして、第九百二代の天皇の御子にして、第九百三代の天皇の御子にして、第九百四代の天皇の御子にして、第九百五代の天皇の御子にして、第九百六代の天皇の御子にして、第九百七代の天皇の御子にして、第九百八代の天皇の御子にして、第九百九代の天皇の御子にして、第百代の天皇の御子にして、第百一代の天皇の御子にして、第百二代の天皇の御子にして、第百三代の天皇の御子にして、第百四代の天皇の御子にして、第百五代の天皇の御子にして、第百六代の天皇の御子にして、第百七代の天皇の御子にして、第百八代の天皇の御子にして、第百九代の天皇の御子にして、第百十代の天皇の御子にして、第百十一代の天皇の御子にして、第百十二代の天皇の御子にして、第百十三代の天皇の御子にして、第百十四代の天皇の御子にして、第百十五代の天皇の御子にして、第百十六代の天皇の御子にして、第百十七代の天皇の御子にして、第百十八代の天皇の御子にして、第百十九代の天皇の御子にして、第百二十代の天皇の御子にして、第百二十一代の天皇の御子にして、第百二十二代の天皇の御子にして、第百二十三代の天皇の御子にして、第百二十四代の天皇の御子にして、第百二十五代の天皇の御子にして、第百二十六代の天皇の御子にして、第百二十七代の天皇の御子にして、第百二十八代の天皇の御子にして、第百二十九代の天皇の御子にして、第百三十代の天皇の御子にして、第百三十一代の天皇の御子にして、第百三十二代の天皇の御子にして、第百三十三代の天皇の御子にして、第百三十四代の天皇の御子にして、第百三十五代の天皇の御子にして、第百三十六代の天皇の御子にして、第百三十七代の天皇の御子にして、第百三十八代の天皇の御子にして、第百三十九代の天皇の御子にして、第百四十代の天皇の御子にして、第百四十一代の天皇の御子にして、第百四十二代の天皇の御子にして、第百四十三代の天皇の御子にして、第百四十四代の天皇の御子にして、第百四十五代の天皇の御子にして、第百四十六代の天皇の御子にして、第百四十七代の天皇の御子にして、第百四十八代の天皇の御子にして、第百四十九代の天皇の御子にして、第百五十代の天皇の御子にして、第百五十一代の天皇の御子にして、第百五十二代の天皇の御子にして、第百五十三代の天皇の御子にして、第百五十四代の天皇の御子にして、第百五十五代の天皇の御子にして、第百五十六代の天皇の御子にして、第百五十七代の天皇の御子にして、第百五十八代の天皇の御子にして、第百五十九代の天皇の御子にして、第百六十代の天皇の御子にして、第百六十一代の天皇の御子にして、第百六十二代の天皇の御子にして、第百六十三代の天皇の御子にして、第百六十四代の天皇の御子にして、第百六十五代の天皇の御子にして、第百六十六代の天皇の御子にして、第百六十七代の天皇の御子にして、第百六十八代の天皇の御子にして、第百六十九代の天皇の御子にして、第百七十代の天皇の御子にして、第百七十一代の天皇の御子にして、第百七十二代の天皇の御子にして、第百七十三代の天皇の御子にして、第百七十四代の天皇の御子にして、第百七十五代の天皇の御子にして、第百七十六代の天皇の御子にして、第百七十七代の天皇の御子にして、第百七十八代の天皇の御子にして、第百七十九代の天皇の御子にして、第百八十代の天皇の御子にして、第百八十一代の天皇の御子にして、第百八十二代の天皇の御子にして、第百八十三代の天皇の御子にして、第百八十四代の天皇の御子にして、第百八十五代の天皇の御子にして、第百八十六代の天皇の御子にして、第百八十七代の天皇の御子にして、第百八十八代の天皇の御子にして、第百八十九代の天皇の御子にして、第百九十代の天皇の御子にして、第百九十一代の天皇の御子にして、第百九十二代の天皇の御子にして、第百九十三代の天皇の御子にして、第百九十四代の天皇の御子にして、第百九十五代の天皇の御子にして、第百九十六代の天皇の御子にして、第百九十七代の天皇の御子にして、第百九十八代の天皇の御子にして、第百九十九代の天皇の御子にして、第二百代の天皇の御子にして、第二百一代の天皇の御子にして、第二百二代の天皇の御子にして、第二百三代の天皇の御子にして、第二百四代の天皇の御子にして、第二百五代の天皇の御子にして、第二百六代の天皇の御子にして、第二百七代の天皇の御子にして、第二百八代の天皇の御子にして、第二百九代の天皇の御子にして、第二百十代の天皇の御子にして、第二百十一代の天皇の御子にして、第二百十二代の天皇の御子にして、第二百十三代の天皇の御子にして、第二百十四代の天皇の御子にして、第二百十五代の天皇の御子にして、第二百十六代の天皇の御子にして、第二百十七代の天皇の御子にして、第二百十八代の天皇の御子にして、第二百十九代の天皇の御子にして、第二百二十代の天皇の御子にして、第二百二十一代の天皇の御子にして、第二百二十二代の天皇の御子にして、第二百二十三代の天皇の御子にして、第二百二十四代の天皇の御子にして、第二百二十五代の天皇の御子にして、第二百二十六代の天皇の御子にして、第二百二十七代の天皇の御子にして、第二百二十八代の天皇の御子にして、第二百二十九代の天皇の御子にして、第二百三十代の天皇の御子にして、第二百三十一代の天皇の御子にして、第二百三十二代の天皇の御子にして、第二百三十三代の天皇の御子にして、第二百三十四代の天皇の御子にして、第二百三十五代の天皇の御子にして、第二百三十六代の天皇の御子にして、第二百三十七代の天皇の御子にして、第二百三十八代の天皇の御子にして、第二百三十九代の天皇の御子にして、第二百四十代の天皇の御子にして、第二百四十一代の天皇の御子にして、第二百四十二代の天皇の御子にして、第二百四十三代の天皇の御子にして、第二百四十四代の天皇の御子にして、第二百四十五代の天皇の御子にして、第二百四十六代の天皇の御子にして、第二百四十七代の天皇の御子にして、第二百四十八代の天皇の御子にして、第二百四十九代の天皇の御子にして、第二百五十代の天皇の御子にして、第二百五十一代の天皇の御子にして、第二百五十二代の天皇の御子にして、第二百五十三代の天皇の御子にして、第二百五十四代の天皇の御子にして、第二百五十五代の天皇の御子にして、第二百五十六代の天皇の御子にして、第二百五十七代の天皇の御子にして、第二百五十八代の天皇の御子にして、第二百五十九代の天皇の御子にして、第二百六十代の天皇の御子にして、第二百六十一代の天皇の御子にして、第二百六十二代の天皇の御子にして、第二百六十三代の天皇の御子にして、第二百六十四代の天皇の御子にして、第二百六十五代の天皇の御子にして、第二百六

日本銀行前切符販賣
(デルトリヤ行)
汽船
九月十日出帆
[illegible]

英領加奈陀ヴオクトリヤ市ドグラス街一二七三三
伊本美術雜貨 **永野商會**
カバーメント街一五〇一
パンドラ街角 電話一六二八
日本美術雜貨 **永野商會**
カバーメント街
コムウント角街六〇七
食料品 酒類 **永野商店**
大阪商船株式會社 **汽船切符** 取次販賣
(電話五九二)

大販賣

弊商會は都合により閉店致しますので左の品物でも三割三分より六割引でメチヤ〳〵の大安賣を致しますから御來店御買求め下さい

金物、ブリキ製品
玩具 陶器
グラス製品
東ペスタング街一四八
バンクーバー座と劇場の中間
ヴァラエチー店
VARIETY STORE 16 Hastings W.

大阪商船
小倉行 **馬の賣物**
ペンダー街大北鐵道(南京町)
大北運送會社
(電話四五六五)

[illegible]
鐵葉細工
並に修繕 鮮の日立
バウエル街四三二(ならく裏)
秋山太郎
日本ハンドル二一八

馬の疾病治療に
馬蹄
車カドバ街紀の國屋ステーブル
ゼーダブルユー **ブラント**

新旅館相模屋
内外 **汽車汽船切符**
各種勞働口周旋
電話アレキサンダー街三一三
賀屋 **青木米吉**
(電話三五四三)

何處の方面でも土地賣買希望の方は本社事務所まで御申込み下さい迅速に周旋致します
晩香坂市バウエル街四五一
日加 **土地賣買會社**
電話(本社 ハイランド 七九六)
(自宅 シーモア 四七一四)

フオートジヨージ

地價騰貴せり

當事務所が新分割農園地として賣出したるセクション一八七三號は從來五十弗エーカーなりしも今後七十五弗エーカーとなれり

現金五十弗(各五エーカーに付)
殘金毎月十弗宛
月拂

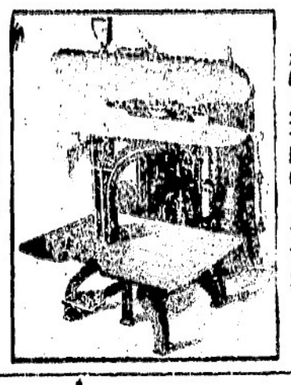
晩市ダンレーグイ街一三九
電話シーモア五三八三
北川事務所
主任 北川 熊市
所員 小林 新之助
電話五三八三
郵函九二七

▲**支那料理**
▲**南京蕎麥**
室内清潔にして美味
無比萬事丁寧にして至極廉價殊ま日本人の御登樓を待ち上げ申候
キヤーロル街とペンダー街との角二階
北京酒樓
(電話四三一六)

飯茶碗
小皿及丼
急須及カップ
外ニケッチン **道具**
晩市バウエル街二六九
香村商店
P.O.Box 1072 Phone 2131
Vancouver, B. C.

石碑、圍ひ石等の据附至極廉價に貴店に願じ候用材は當州產又は輸入石何れにても御好みに任せ候
晩市ウエストミンスター第十六街の角
パターソン、エンド チヤンドラー
(電話四六六三)
Patterson & Chandler

男女洋服洗濯
絹物及毛織物一切洗濯



メイン街六〇七
アベニユー洋服洗濯所
電話シモア三五三二

和洋雜貨食料品
日本綿及び眞綿
磁器類いろ〳〵
江州澤庵
蒲鉾製造販賣
前川商會
電話三七二一郵函一〇四五

◉特許製スタンピング **火藥**
▲キヤツプス
▲フユース
右特別の注意を拂ひ北晩香坡、バーナビー、南晩香坡、コクイトラム、ポイントグレー等に配達可仕候
ポイントグレー用達會社
本店晩市リチヤード街三一〇
電話シーモア四一〇五
支店 クリスデールステーション
電話イーブン四六アール
The Point Grey Supply Co.

めし、鯖すし
どろ〳〵、どんこ
其外なんでもある
小便横町 **千鳥**
(電話二六九九)

理髮業
フルーツ及び鑵詰類タバコ販賣
晩市ランスダウン街一三〇
大橋留吉
130 Lansdowne Ave

讓受廣告
今回石川藥店二階のルーミングハウスを讓り受け萬事清潔に且御取扱丁寧に可仕候間何卒倍舊御引立の程希上候
六月廿日
林事 **靜岡屋 杉浦茂三郎**

御てがる料理
並に **仕出し**
バウエル街とゴーア街角
あけぼの
(電話二〇六七)

◉◉**肉**
◉**鮮類**
◉**魚**
開業
肉屋
今般左記の場所に肉屋開業仕り總て新鮮にして且廉價に販賣仕り候間何卒御取引立の程願上候
バウエル街三四四
パウエル街肉店

御めし
並に **うどんそば**
バウエル街三三二 電話六五二五

移轉御披露
弊店儀從來バウエル街一九一に日本雜貨食料品類營業罷在候處今回新築に付き幸に營業を擴張せんが爲め雜貨部をバウエル街とメイン街の角より二軒目の食料品部を西第六街一六一に設け一層大勉强仕り御需に應じ可申候間何卒倍舊御引立の程伏して奉懇願上候
晩市バウエル街一五九
メイン街の角より二軒目
雜貨部 江畑商店
電話シーモア三八九五
同西第六街一六一
食料品部 江畑商店
(電話二〇七三)

旭屋旅館
當館は萬事親切を旨とし各種勞働口の周旋滊船滊車切符の取次可仕候
バウエル街二七〇
郵函六九六
でんわ二〇六七
谷口熊太郎

土地家屋賣買業及病傷保險申込所
電話 コーリングウード 郵函四一
小野助四郎
Cor Grand and Westminster Road
Colling Wood East, B. C.
支部 757 Pandra Ave, Victoria,

御飯うどん
並に **餅賃搗**
バウエル街四五一
祝もち
電話ハイランド七九六
江州屋

私儀今回左記の場所に於て雜貨食料品店開業仕至極安價にて販賣致すべく候間多少に拘らず御買求あらん事を希ふ
晩市西第六街八七四
山田商店
電話フエアモント一五七九

葬式一切取扱
グリーンエンドマークレー
葬儀社
GREENE & MRKLEY
305 Pender St City Phone 340

御手輕料理
並に **うどんそば**
仕出仕候
電話シモア四三六二R
メイン街一一六
梅香

食料品及び雜貨
バウエル街一二六
池田十七吉

○日本骨董品雜貨
○諸件代書一切取扱
○衰弱者食養法傳授
晩市ロブソン街一〇一七
淺野錦耕堂

酒井精米所
酒井運送店
◎中國上米卸小賣
◎貨搗き仕候
◎味噌醬卸賣
日ノ米御買求めの節は「エス」印に御注目被下度御一報次第迅速に御届け可申上候
アレキサンダー街四七四
酒井精米所
酒井運送店
持主 酒井鶴之助
御用の節は電話三五九六又は三八二七にて被仰付度候

漁船、ガスリン船
其他一切の小舟製造
ステブストン郵函二〇電話七
田中 中出 **造船所**
Tanaka & Nakade
Boat Builder
P. O. Box 20 Steveston B. C.

理髮店
取扱可申
貸し室
清潔内室
土地賣買代書事務所
晩香坂三〇八七
電話ハイランド九四四
中川床

古物賣買
新物一切商
バウエル街一三八
茅原古物店

宿屋
室内清潔
和洋**雜貨食料品**
晩香坂市東カドバ街一五一
紀の國屋
(電話六八三)

品質佳良
特別安價
メイン街一一八
新井洋服店

生魚青物一切
鑵詰類タバコ、アイスクリーム其他色々販賣仕候
晩市バウエル街二一七一
梶木彌太郎店

菓子製造卸小賣
バウエル街二二九
溝邊菓子店

鮮魚
青物類
電話四四一
バウエル街二五三
西村魚店

◉**御めし**
◉**うどん**
◉**そば**
午前七時より熱飯の御用に應申候
バウエル街二六四
電話四三九八
〇万

金物類
ランプ類一切
ブリキ細工
晩市バウエル街二二六
關根

會席料理
並に **めし**
メイン街二二八
電話郵函三九九八 九二七
菊の家

葬儀一切取扱
晩香坂市メイン街六二〇
エドワード **葬儀社**
Edwards.
Phone 1390 Vancouver B C

エキスプレス
晩香坂市バウエル街四六一
森野方
松林兼吉
電話二五四六

西洋料理
御席御料理は晝夜に關らず何時にても御注文に應じ申可候
南京料理
當市で最も美しき客室を有し料理は上等の品を選び熟練なる料理人によりて調理致し殊に日本人諸君の御來亭を歡迎仕候間何卒御贔屓の程願上候
尚紳士、淑女の爲に特に別室の設備仕り居り候
晩市西ヘスチングス街一二二
香港樓
電話九三六八

ニューウエストミンスター
玉場・西洋風呂
ルームは清潔で寢心地よし
玉場はテーブル飯豪備付あり
床場は敏速で御氣に召す樣に
風呂は清らかにして申分なし
新西院市ブラッキー街九
中川義治
鷹野基慶
電話六〇〇郵函四三八

玉突場開業
新西院市コロムビア街八六五
ウエスタン玉場
沖永由松
電話郵函六二七四二四
從前の如く豆腐製造致候

▲和洋**食料品**
ニューウエストミンスター市
三國商會
電話郵函三三八七八

御手輕料理
並に **めし すし**
新西院市(舊林屋跡)
仙臺屋

なんでもある店
最廉價販賣
新西院市コロムビア街
成記 **シンキー**

先帝陛下と和歌

新日本を創設し給うた絶世の英主明治天皇の御聖德を敬へ奉る可き一つとして陛下が我が國風たる和歌の道に御熱心であつて、御歴代中に比類なき歌聖にあらせらるゝは誠に我邦の慶多くも喜びとする所である

陛下は始めは西三條公知卿に、後には高崎正風男に御指を示し給うた、公知卿の歌風は、明治堂上風の歌風と有つた、正風男は八田知紀の門で桂園派の歌風で有つた陛下の御歌として我々の洩れ承る處では、かの高崎正風翁が、陛下の御製拜見を命せられて以來の御作のみでも既に十方首に近いとの事である、陛下の御製は戰捷を祈せられて自然の調があらせられる、御才は全く天禀に渡らせらるゝので御幼神の頃から御詠みは遊ばせられ御即位後は次第に御上達遊ばされ御歴代の歌人にましました天皇に並べ奉りて御遜色なく寧ろ歌聖立まさり給ふ

殊に陛下の御製を拜して、皇下の感化を奉るは御教訓の意を寓せられた御製である、どこまでも聖德けだし陛下の御人格の自然の發露であらせられ千古に傳ふべき御製拜ぐるに遑なし、例へば

どこしへに民やすかれと願るなるわが代をまもれ伊勢の大神

國の爲たふれし人を悼しむにも思ふは親の心なりけり

夏の夜も秋豐かちにぞあかしける世の爲思ふ事多くして

國民は一つ心に守りけりとほつみおやの神の歌へを

曉の狂歌しづかに思ふかなわがまつりごと如何あらむと

とる棹の心ながくも漕ぎよせむ芦間の小舟さはりありとも

たらちねの親の心を慰めよ國につとむるいとまある日は

あさみどり澄みわたりたる大空の廣きをたのが心ともがな

國の爲ふるひし筆のいのち毛のあとこそのこれ萬代までふ

山のたく嶋のはてまで探ね見む

世に知られざる人もありやと何事も思ふがまゝにならざるかへりて人の身の爲にこそ

家富みてあかぬことなき身なりとも人の務めを忘るなゆめ

もつ人の心によりて死とも玉ともなるはこがねなりけり

此等の御製は、いづれも多少の歌調的意義を含めさせられてあるが純文學的見地より觀て成は叙景に成は抒情に自然の情趣をさながら御歌ひありし御製を少し擧げて見る

思ふ事ありのまに〳〵つらぬるがいと疎き夜の慰みにして

軒近くかけつらねたる燈火のまたゝくほどの風だにもなし

家なしとたもふ方にも燈火の影見わそめて日は暮にけり

ゆふやけの空の朱色ぞうるはしき紫はてなき松原の上に

ゆく水は照る日にかれていさゝ川風に波よるすすきかるかや

花時はさむしといひて陽はざりし谷の櫻もわかばさしけり

をちこちにを花なみよる影見わて月すむ野邊に秋風ぞ吹く

春秋の花に紅葉の慰しきは昔すみつる郷なりけり

いづれより釋はまきけむ中垣のうらにもてなく咲る朝顔

窓の中に扇とりても暑き日に照る日をわけて小草刈る見ゆ

賤が家の軒端に高く積み上げし新藁しろく稍ふりゆけり

陛下の御製すでに十万を超ゆると申すに、世に洩れたるは僅々二百首内外、如何にしてかく御製裏の少きかは臣等の不思議とする處であるが、これ實に陛下の御謙遜によるので、已に洩れた御製も新年の御製の外は一首も聖慮に依つて洩れたのはないのだ皆な高崎翁が感激して能はずして私に洩らされたのであると云ふ、十万の御製恐く金玉の響きならざるはなし、此に明錄せるは僅かに九中の一毛に過ぎない、從來民間に洩れ傳へられた極めて少數の御作の其一分を明瞭して陛下を慰び奉る一端とする。

料理小生儀從來諸君の御熱心なる愛顧を得て英語夜學校經營致居候處此度日本人メソヂスト教會附屬英語夜學校の招聘お應に同校に於て教鞭を取る事に相成申候に付以後同校迄御通校被下度右御通知旁々御案内申上候也

大正元年九月四日

駿田二三

夜學校生徒諸君

△△△

拝啓小生儀從來諸君の御熱心なる御指導を得て英語授業の目的を達し候段厚く御礼申上候

大正元年九月四日

駿田三三
夜學校生徒諸君

和洋雜貨食料品一切
右精々勉強販賣可仕候間多少に拘らず御買求め下され度候
晩市西第二街一六四二
電話ベヒュ二二二
小西佐一

英語夜學校（月、火、木、金）
自午後八時至九時半
日本人メリヂスト教會
校長 ユール大學文學士 駿田三三
白人教師 ミス トムグリン

時計修繕
貴金屬寶石類

▲金細工 ▲婦人用飾品
晩市メイン街二〇二
松林時計店
電話レーモア六五三三

實地踏査せし晩香坡島の豊土ハ
デーベー以西
第一等の土地二
十英加の價
貳百五十弗 時金五十弗 毎金三ケ年
紐育生命保險會社代理店
晩市バウエル街二四六
福永事務所
電話二七三

養受廣告
從來南晩市ユーコン街に於て日本雜貨食料品商西川商店跡を譲り受け去る九月五日より引續き營業を開始仕候間何卒倍前御引立相願み申候、付きては一層の大勉強を以て販賣仕候間何卒倍前御引立御用命あらん事を伏て本懷願候
晩市ユーコン街二〇〇
ウンスガウン街角
西川商店跡
田中治吉
電話フェヤモント二〇〇

電燈、電燈取附、修繕、壁紙貼附等の御命仕事堅極安直に可仕候間多少に拘はらず御用命付度候
電話シーモア六三三四
ゲブリュー、エチ、ベレー
又は 小嶋事務所

私儀今回林家を讓り受け來る左の通り
九月一日
より
調進仕候間何卒倍前御引立の程希上候
寿し 天ぷら 茶碗むし
其他仕出し一切
林家
中濱菊松
電話 レーモア三四五五

加奈太唯一、確實にして有益なる傷病保險
詳細は勧誘員に就き聞合はされたし
クエスターン、ライフ、エンド、アクシデント保險會社
晩市バウエル街五〇〇
日本人代理 **植田文治郎**

開館滿十ケ年御披露
滿十ケ年に相成り中候に付聊か平素の御愛顧に報ゆる爲め來る七日より十月十五日迄
貳割引
に撮影仕り候間何卒陸續御來館の程偏に願上候
晩市メイン街三三八
有門寫眞館

新株募集
株式會社
加奈陀
晩市バウエル街二四五
三尾株式會社
ステブストン
新山商店
奥山商店
山本伊之助
晩市東カドバ街一五一
紀伊の國屋商會
同バウエル街二〇五四
上山寅四七四
酒井精米所
株式壹千株
額面金拾弗
第一回金四弗
第二回金參弗
第三回金參弗
來年四月廿日
來年十月廿日
總切九月廿日
申込株金數に依り總切る事
今回株主總會の機決に依り株數を行可仕候間至急下記申込所へ拂込金相添へ御申込有之度候也

日本人旅館
清潔 取扱丁寧
室内
プリンスルパート六アベニュー三〇四 郵函 八九四
須賀丑藏

晩市バウエル街二四五
藤原寫眞館
電話エル一五四〇

大阪商船株式會社
しやとる丸 九月十八日
出帆
きさしこ丸 九月二日
荷客代理店
ヴアンクーバー シー、ジー、ジョンソン商會
ヴイクトリア アール、ビー、リセット商會
ヴイクトリア發日本各港上海經由香港行
ヴイクトリア發日本各港マニラ經由香港行

日本行ビクトリア出帆廣告
横濱丸 九月廿八日午後
靜岡丸 十月廿日午後
阿波丸 十月廿日午後
因幡丸 十月八日午後
丹波丸 十月五日午後
佐渡丸 十月三日午後
シアトル
日本郵船會社
バンクーバー ヴイクトリア 同社代理店
出張所
大北鐵道會社

注意

▲砦浄治ノ開祖ニシテ大地主ノ聯合ヨリ成レル我ガ自然富源保全會社ノ本店ハ來ル九月一日ヲ期シ砦浄治市ニ移轉シ同時ニ支社ヲ「グランビル街」「バアンスブロック六二〇—二四」ニ設置ス
▲G.T.P（グランド、トランク、パシフイック鐵道）ガ完成ノ期日近キアルト共ニ眼前ニ迫迫セル彼ノ太平大東鐵道（PGE）布設工事ハ中部ビー、レーブンシク激甚ノ大發展ヲ來サシメ直ニ我ガ砦浄治市ニ對シ活氣アル進歩ヲ與フル「甚大ナリ」記セヨ砦浄治ニ於ケル大陸横斷鐵道ジー、ター、ビーノ工事ハ今ヤ之ガ眞最中也
▲尚ホ「エドモントン、アンド、ダングエガン、アンド、ブリチシユ、コロムビア鐵道」ノ工事ハ砦浄治市ヨリ北ノ方「ピース、リバー」地方ト連絡セントシ之ト同時ニ尚ホ「ビー、シー、アラスカ鐵道」「ビー、シー、エー、アール」外八大鐵道モ相前後シテ晩クモ明年夏季迄ニハ起工スト可シ
▲砦社ガ過去三年間實ニ砦浄治市ハ中部ビー、シー州鐵道ノ中心タル可キヲ疑ハセシ今ヤ將ニ現實ニ近ヅキツヽアルヲ視ルベシ
▲既往砦社ハ專門的ニ中央ビー、シー州ニ投資ノ好機會ヲ江湖ニ照會セリ 自今尚ホ繼續スルノミナラズ今ヤ本社ヲ彼ノ地ニ移ス ハ偏リ本社ノ利益ノミナラズ 投資家諸君ノ爲メニ莫大ナル便益タルヲ確認セリ況ンヤ砦浄治市ノ如キ近キ將來ニ運輸ノ中心ニシテ又實ニ商品ノ一大集散地トシテ將タ又加奈陀中最大富源ヲ有スル中樞ナレバナリ、
▲故ニ砦浄治市ハ只一大商業地ノミナラズ、實ニ自然ノ寶庫トモ稱スベキ「ピースリバー」地方ニ通ズベキ唯一ノ門戸タリ 而シテ面積ハ優ニ「紐育及ペンシルバニア」二州ヲ合シタルモノニ均シク實ニ其ノ三分ノ二ハ卓越セル農園地ヲ含有セリ
▲過去及現在ニ於テハ「ピース、リバー」地方ノ發達ニ伴ヒ各種需要ニ對シ供給セルハ「エドモントン」市ナリ、然レドモ砦浄治市ヨリノ鐵道完成ノ曉ハ忽ニ停止サレ、輸出入品ハ砦浄治市ヲ經由シ晩香坡及「プリンスルパート」ニ向ヒ或ハ「バナマ運河」ヲ經テ歐洲ニ又歐米大陸ニリスルヲ得ベシ
▲此クノ如ク運輸ノ便完成セバ其ノ商業區域ノ面積ハ一八、五〇〇方哩ニ達シ北米合衆國中「オハヨ」「インデアナ」「イリノイス」及「ミチガン」ノ四州ヲ併セタルニ比スベシ、如此廣大ナル有望ノ地方ニ對シ向後幾年間資力ノ大小ヲ問ハズ投資ノ驚望アリ 先見アル諸君ハ弊社ニ申込マルベシ、依賴者ノ紹介ヲ以テ待遇ヲ異ニスル事ナシ
▲本社ヲ砦浄治市ニ移シ愈々夫ノ發展ニ近接スルハ將來自他便益ノ上ニ更ニ〈甚大ナル好影響ヲ與フベキハ本社ノ過去ニ徴シテ明カナルベシ
▲諸君ニシテ商業上ノ關係ニヨリ或ハ投資的好機ニ就キテ砦浄治及中部ビー、シー州ニ關シテ知ラント欲セバ左記ニ申込レヨ

Natural Resources Security Co. Ltd.
Fort George, B. C. (九月一日發)
但シ日本人諸君ハ本社ノ總代理タル山田事務所ニ從前通リ御用御申付ケ被下度願上候
晩香坡市バウエル三八二 電話 シーモア 九一四三
山田事務所
NRSCC日本人部支配人 山田昌則
商事顧問 臼井國太郎

Azuma Co.
P.O.Box 787 Vancouver,B.C.
和洋食料品一切 卸小賣
日本酒 櫻魂 白鶴
ビール 洋酒類一切
晩市バウエル街五四五「電話ハイウンド二七五」
同市ダンレビー街一三二「電話レイモア六六三三」
東合資會社支店
同 酒店
◎市内は電話にて御注文被下度く何品にても即時配達仕候

電話 八九九一

▲和洋食料品一切
▲陶器類
スキーナ河ポートエシングトン
岸本商店
郵箱 三一

御手輕料理
▲めし▲そば
バウエル街三五五
書籍雑貨
松島屋

干うどん
ろうばうめん 卸賣
晩香坡市フロント街一四八 郵函一七〇六 電話フェヤモント一四〇六
山崎製麺所

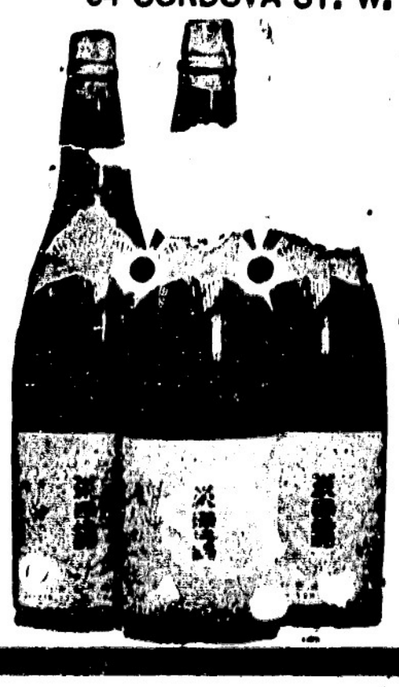
菊正宗一手販賣
日進合資會社
バウエル街二〇五 電話 郵函 二三二一〇

樽圍新荷着
菊正宗ハ國醸ノ清酒中純良無比ナルハ皆サンノ既ニ御承知樽圍ハ菊正宗ヲ最モ精選シタ天下ノ逸品ナルハ弊社ノ自慢

雑貨食料品
晩市バウエル街三四五
土田商店
主任 清水重太郎
郵函 一六六五 電話 三五六六

酒を飲むなら澤の鶴を飲め
▲澤の鶴は世界一なり

T. A. Cavin
Successors to
W. A. Urquhart
54 CORDOVA ST. W.



▲澤の鶴は日本酒の覇王あり
一手販賣元
ダブルユー、エー アーキュハート讓受人
チイ エー カブィン

The Pacific Bottling Works Ltd.
FOOT GORE AVE. VANCOUVER, B. C.
燒酎 味淋
日本各銘酒
レニアビーヤ
洋酒類各種
太平洋瓶詰會社
日本人部販賣主任 土田嘉次郎
電話 ヴェヤモント一三二
郵函 一六六五

理髮業
バウエル街二四三
平井床
平井藤作

大澤旅館
主 大澤林之助
電話 九八四
516-518 Richard St.

大陸日報 號外

本社特電

●乃木大將殉死す

（十三日東京發）

學習院長陸軍大將伯爵乃木希典氏及び夫人は今十三日夜先帝陸下御靈柩を奉送するに際し殯殿の餘り青山大葬場入口に於て殉死を遂げたり

本日午後二時半發行

大正元年九月十三日
發行兼編輯人 山崎孝
大陸日報社